

NO！リニア

No. 1 4 1

2022年6月2日

JR東海労働組合

JR東海労HP
にアクセス



多発するリニア建設工事の事故 死傷者を出してまでもリニアは必要なのか！

会社は、「リニア中央新幹線トンネル工事崩落事故に関する申し入れ」（『申第16号』）についての業務委員会で、「安全第一で同じ事故を起こさないように、工事関係者と事故防止の対策を施して工事を進めている」と説明しました。しかし、申し入れ後も事故は多発しているのです。会社は、口では安全と言っていますが、実際はどうでしょうか？ 以下、発生した事故です。

発生日	県・市・町村	工 区	事故状況
2021年10月27日	岐阜県中津川市	瀬戸口非常口	崩落事故で2名死傷
2021年11月8日	長野県豊丘村	伊那山地トンネル坂島	崩落事故で1名負傷
2022年3月1日	愛知県春日井市	第一中京圏トンネル西尾	コンクリ片落下1名負傷
2022年3月8日	長野県豊丘村	伊那山地トンネル坂島	コンクリ飛散で2名負傷
2022年4月15日	長野県豊丘村	伊那山地トンネル坂島	指の狭窄で1名負傷

以上のように、同じような事故が多発しています。特に、長野県豊丘村では3回も事故が起きているのです。これでは、いくら会社が「安全第一に事故を起こさないように」と工事を進めていると言っても、全く説得力がありません。

事故が発生した工事現場は、まだ準備工事に過ぎない場所です。南アルプストンネル工事や大深度地下の工事はまだです。つまり、予期しない事故が発生する可能性は大です。これ以上の死傷者を出さないためには、リニア建設を中止するしか方法はありません。